

歴史と役割

日本のメディアはかつて戦争に加担しました。その反省から、日本ジャーナリスト会議（JCJ）は「再び戦争のためにペン、カメラ、マイクを取らない」との理念のもと、1955年にジャーナリストの職能的連帯を求めて設立されました。初代議長は雑誌『世界』編集長の吉野源三郎氏でした。

JCJは60年安保やベトナム戦争の際には反戦の世論形成に大きな役割を果たしました。その後も自衛隊の海外派遣や集団的自衛権の行使容認、秘密保護法の制定など、憲法をないがしろにして政府が押し進めた多くの政策に反対の論陣を張り、民主主義や言論・表現の自由の大切さを訴えてきました。

いま政府は基地負担に苦しむ沖縄で米軍新基地建設を強行し、台湾有事の不安を煽って各地でミサイル配備など自衛隊基地を増強しています。ウクライナなどでの戦争の衝撃を背景に日米の軍事統合を急ぎ、防衛費も年々巨大化。殺傷兵器の輸出も解禁され、今や日本はいつでも戦争できる国に変えられようとしています。さらに愛国的教育や歴史修正主義を押しつけ、放送局の番組や人事に介入するなどメディアやジャーナリストへの攻撃・統制を強め、憲法改悪へと突き進んでいます。その間、原発の再稼働・新設へと踏み込み、福祉削減、増税、格差拡大など、政府の横暴と無策は目に余ります。マスメディアへの市民の不信はつのも、フェイクニュースやヘイトクライムによる社会の分断も顕在化しています。JCJはこうした動きに抗議し警鐘を鳴らし続けています。

ジャーナリズムの役割が改めて問われている今こそ、私たちは信頼される仕事をしなければなりません。「日本を再び戦争する国にしてはならない」— JCJは設立の理念を胸に刻み、市民とともにあるジャーナリズムを追求していきます。（2024年5月）

あなたの参加を心から歓迎いたします。お問合せをお待ちしています。

日本ジャーナリスト会議 (JCJ)

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-10-15
富士ビル501

TEL : 03-6272-9781

FAX : 03-6272-9782

メールアドレス : office@jcj.gr.jp

ホームページ : jcj.gr.jp

X(旧twitter) : @jcj_online

ブログ Daily JCJ : jcj-daily.seesaa.net

■会費

一般 : 月額1,000円 / 年間12,000円

学生 : 月額500円 / 年間6,000円

(機関紙購読料込み、1年前納を原則とします)

■機関紙「ジャーナリスト」(月刊)

年間購読料 : 4,000円 (送料込み、1年前納を原則とします)

■会費・機関紙購読料の送り先(口座名:ニホンジャーナリストカイギ)

郵便振替 : 00190-2-76501

ゆうちょ銀行・138支店・普通 : 1908866



一人ひとりが、
ジャーナリスト。



日本ジャーナリスト会議



JAPAN CONGRESS of JOURNALISTS

ジャーナリズムは、民主主義と市民社会にとって、かけがえのない存在です。

日本ジャーナリスト会議(JCJ)は、「ふたたび戦争のために、ペン、カメラ、マイクを取らない」を合言葉に、1955年に発足。2020年、65周年を迎えました。

マスメディア関連の仕事に従事している方、機関紙や市民メディアなどの編集者、フリージャーナリスト、ジャーナリズムに関心を持ち表現活動をする市民、学生など、どなたでも参加できます。

市民と手を携えて進む日本ジャーナリスト会議に、みなさんの参加を呼びかけます。

JCJがめざすもの

- 真実の報道を通じて世界の平和を守る
- 言論、出版、表現の自由を守る
- ジャーナリスト相互の親睦をはかり、結束を固める
- ジャーナリストとしての識見を高め、生活の向上をはかる
- 世界のジャーナリストとの連絡、協力、交流をはかる
- 不当に圧迫されたジャーナリストを支持、援助する

組織

現在、会員は約500人。機関紙「ジャーナリスト」読者は約1,000人。会員は個人として加入する(団体加入は行っていない)。地域別、分野別に17の支部・部会があり、会員はいずれかの支部・部会に所属することもできる。定例の運営委員会のほか、機関紙編集会議、組織・財政委員会、書評委員会、JCJ賞推薦委員会、などを通じて運営されている。

代表委員

白垣詔男、隅井孝雄、中村悟郎、藤森研、山口昭男、吉原功(2024年度)

活動

◆JCJ賞

「JCJ賞」の選考、贈呈:毎年、すぐれた言論・報道活動をした団体・個人を応援するために贈られる。第1回は1958年。2024年に67回目を迎える。

◆集会

▽8・15集会:アジアへの侵略と太平洋戦争が終結した8月。反戦の決意を新たに、JCJ賞の贈賞式を兼ねて「8・15ジャーナリストと市民の集い」を開く。

▽12・8集会:真珠湾攻撃が行われた12月、平和とジャーナリズムの問題を討論。

▽上記定例集会の他、様々な緊急集会、支部・部会が行う小集会や講演会のほか、他団体と共催で街頭での訴えや支援活動などを行う。コロナ禍以降はオンライン講演会中心で多彩なテーマ、多彩な講演者を迎えて数多くの集会を行っている。JCJ会員は本部主催のオンライン講演会には原則無料で参加できる。集会の内容、要旨はホームページの「講演・シンポジウム」欄に掲載。なお、JCJ会員はホームページに登録すれば、過去のほとんどのオンライン講演会をいつでも視聴できる。

▽現役ジャーナリストとの交流、技術の継承、若手の育成をはかる「ジャーナリスト講座」やジャーナリズム問題を論議学習する「ジャーナリズム研究会」、基地問題を中心とした「沖縄ジャンプナイト」、「放送を語る会」など、テーマに特化した活動も行っている。また他団体とのコラボ企画、交流などの共闘も進めている。

▽国内外で社会的な問題が発生した時には、ただちに声明や抗議文を発表。

▽取材ツアー:社会的な問題の現場で取材し、住民と交流する集会を随時開催。豊島産廃、横須賀海軍基地、沖縄米軍基地、有珠山噴火、夕張、広島・岩国・呉、福井原発、福島3.11被災地、九州豪雨など。コロナ禍で休止中。

▽全国交流集会:地域支部の活性化と交流のため、取材ツアーとジョイントで年に一回行っていたが、コロナ禍で休止中。

◆発行物

月刊機関紙「ジャーナリスト」。購読希望の方には見本紙送付。集会報告集など適宜、書籍を発行。